

第4回大仙市いっせい防災行動訓練
～シェイクアウト 2018 in Daisen～

成果報告書 =別冊第2=

訓練前後の報道資料等



平成30年3月

大仙市シェイクアウト事務局

1. 1月19日(金) 読売新聞 (参加者募集など)

地震雪崩訓練 スキー場で

大仙市、23日 陸自や県警など500人参加

県と大仙市は23日、協和スキー場(同市協和船岡)とその周辺で、巨大地震の発生に伴う雪崩を想定した防災訓練を実施する。

訓練は、昨年3月に栃木県内のスキー場で雪山訓練中の高校生と教員の計8人が死亡した雪崩被害を踏まえて行われる。想定では、震度7の地震が起き、巨大な揺れにより協和スキー場で雪崩が発生、8人が巻き込まれた―とし、陸上自衛隊や県警、消防などから

約500人が参加。スノーモービルやそりを使い、被災者らを救出する。

雪崩被害を想定した訓練は、同市では初。救出した被災者をドクターヘリで搬

送したり、放置された車両をどかし、消防車の緊急走行路を確保したりといった訓練も行う予定で、関係機関が連携した大規模な防災訓練となる。

シェイクアウト参加者募集中

大仙市は23日午前11時、最大震度7の地震を想定し、発生直後に①姿勢を低くする②体や頭を守る③揺れが収まるまでじっ

とする―という行動を取る一斉訓練「シェイクアウト」も実施する。3万人を目標に参加者を募っている。問い合わせは市総合防災課(0187・63・1111)まで。

2. 1月24日(水) 秋田さきがけ新聞 (大地震に備え一斉訓練など)

冬場の大地震や雪崩を想定した防災訓練が23日、大仙市の協和スキー場で行われた。行政や県警、消防、自衛隊、

地域住民ら計約300人が参加し、傷病者の救出作業や連絡手順などの連携を確認した。県と市の主催。

声掛け合い被災者救出

震度6強 雪崩、落雪想定 大仙市協和

消防や住民 冬場の活動、難しさ体感



雪の中から発見されたダミー人形を運ぶ自衛隊員＝大仙市の協和スキー場

午前2時に同市の西仙北地などの想定で行った。域を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、協になった2人を助け出す訓練。和地域では震度6強を予測し、庄内地区と沢内地区の

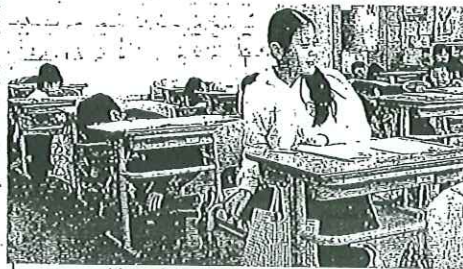
自主防災会の住民が、駆け付けた大曲仙北広域市町村圏組合消防本部の消防員らと共に救助活動。天守夫だが、頭張れよ、なご声掛けを繰り返しながら、スコップで雪を掘り起こした。

栃木県那須町のスキー場で昨年3月、山岳部の高校生ら8人が雪崩に巻き込まれて死亡した事故を受け、同様のケースを想定した訓練も実施。スキー場の斜面で高松登山部員ら8人が雪崩に遭ったとして、消防員が小型無人機ドローンで雪崩の発生現場を確認。陸上自衛隊秋田駐屯地第1普通科連隊や県警機動隊などが、被災者「ダミー人形」の探索と救助に当たった。

大仙市民が地震発生を想定して身をを守る動きを取る「シエイクアウト訓練」が23日、市内の学校や公共機関などで一斉に行われた。

午前1時に震度7の地震が起きたと想定し、机の下などに1分ほど待機した。伊藤祐樹氏は「春早く行動できて良かった。もし本日に地震が来ても、落ち着いて頭を守るよ。」と話した。

大仙市の学校、公共施設 素早く冷静に頭を保護 大地震備え一斉訓練



地震速報を聞いて一斉に机の下へもぐる大曲小の児童

大曲小学校の4年桃組では、児童27人が国語のテスト中に校内放送で緊急地震速報を聞いた。全員が数秒ほどで机の下にもぐり、頭を出さず待機した。

県と市が防災訓練を行った協和スキー場では、参加者やスキー客など約500人がしがんで頭を守る姿勢を取った。

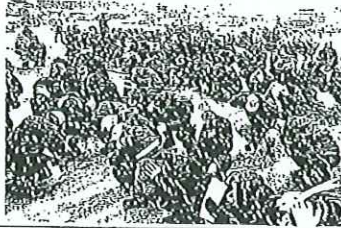
大曲小学校の4年桃組では、児童27人が国語のテスト中に校内放送で緊急地震速報を聞いた。全員が数秒ほどで机の下にもぐり、頭を出さず待機した。

協和スキー場では、参加者やスキー客など約500人がしがんで頭を守る姿勢を取った。

市が2015年から行っている。 (佐藤啓)

庄内、沢内両自主防災会は「夏場にはない課題や問題が発生する。訓練を積み重ねて地域で防災力を高めてほしい」と述べた。

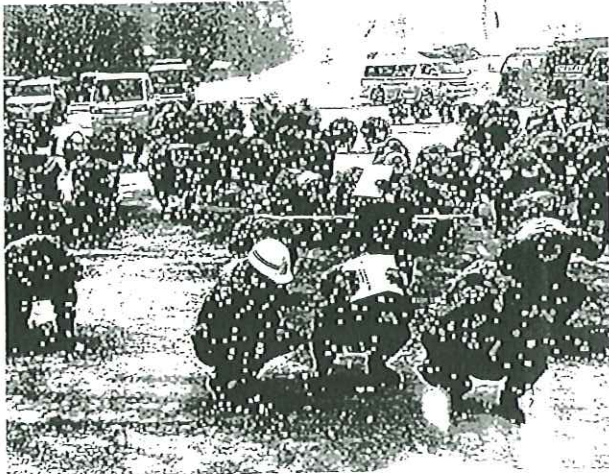
田口功市さん(88)は「夏場以上に自分たちの安全に留意しなければならず勉強になる」とが多かったと振り返った。 (田中倫子)



一斉に姿勢を低くし、両手で頭を守る冬季防災訓練の参加者＝大仙市の協和スキー場

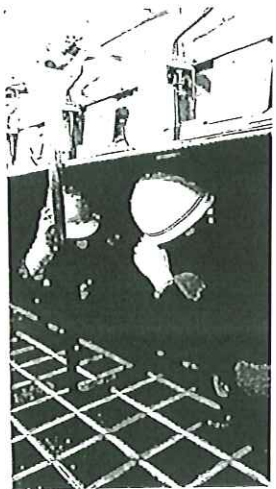
1分間身を守る

シェイクアウト訓練



その場にしゃがみこむ (協和スキー場)

東日本大震災や近年の風水害などを踏まえ、災害に強いまちづくりを進めている大仙市のいっせいで防災行動訓練「シェイクアウト2018 in Daisen」が23日、市内各地で行われた。事前に申し込みのあった企業や学校、市民ら2万9264人が参加し、自分の身を守るための行動「まず低く、一頭を守

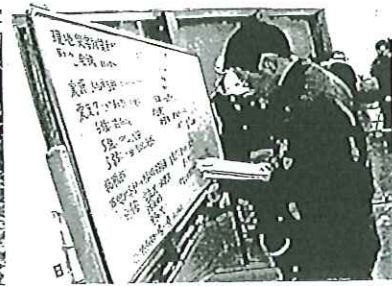


ヘルメットをかぶり保護

り、「動かない」を要した。シェイクアウトは地震が発生した際に安全行動を確認する米国発祥の短時間訓練。大仙市は友好交流都市協定を締結している神奈川県座間市からの紹介を受け、2015年から実施しており、今回が4回目。同市と連携して行った。初年度は参加者を市



被害状況などを確認した災害対策本部



情報をホワイトボードに書き出す

や広域市町村圏組合、事業組合など市職員に限定。翌年度から市民参加型として取り組んでいる。訓練は秋田仙北地震が発生し、市内で最大

震度7を襲ったとの想定で行った。



一文一机の下に身を隠す市職員

したという市民は「災害は忘れた頃にやってくる」ということを肝に銘じ、日頃から備えをしっかりとしたい。年1回でもこうして訓練するとうり取り組みは素晴らしいこと。全市民に浸透すれば良いと思う」と話した。

この日は協和スキー場を会場に、秋田県の共催で冬期防災訓練が実施された。防災係をはじめ地域住民らも参加しており、中でもシェイクアウトが行われ、その場

今野功成総務部長が、けがの有無、路状況、なだれ、火事事故の発生など被害を確認し、今野部長が引き続き警戒情報収集に当たると指示を出した。その後、座間市へ電話状況を報告した。FMはなびの音

市役所大曲庁舎で午前11時、庁内に訓練を知らせるアナウンスが流れた。市職員は図と共に一斉に行動し、机の下に身を隠し、頭と体を保護。それがおさまるまでの分間、こうした状況が続いた。

この日は協和スキー場を会場に、秋田県の共催で冬期防災訓練が実施された。防災係をはじめ地域住民らも参加しており、中でもシェイクアウトが行われ、その場

市役所大曲庁舎で午前11時、庁内に訓練を知らせるアナウンスが流れた。市職員は図と共に一斉に行動し、机の下に身を隠し、頭と体を保護。それがおさまるまでの分間、こうした状況が続いた。

市役所大曲庁舎で午前11時、庁内に訓練を知らせるアナウンスが流れた。市職員は図と共に一斉に行動し、机の下に身を隠し、頭と体を保護。それがおさまるまでの分間、こうした状況が続いた。

4. 1月25日(木) 秋田民報 (冬期防災訓練など)

500人が対応確認

冬期防災訓練



防災会主体で行った「落雪救出訓練」



約500人が参加した訓練



遭難者を救助

県は大仙市との共催で23日、協和スキー周りで積雪寒冷下での大地震発生を想定した冬期防災訓練を実施した。警察や消防、地域住民など約500人が参加し、災害発生時の対応を確認した。訓練は全域または一部が国の特別豪雪地帯に指定されている13の県内市町村で防災体制の強化と地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的に、県と対象市町村が持ち回りで行っているもので今回が4回目の開催。

訓練は同市協和で震度6強を観測する地震発生にともない、冬場に起こりうる災害を想定して行われた。最初にやったのは小屋の屋根からの落雪により、生き埋めになった2人の通行人を救出する「落雪救出訓練」。地元の庄内・沢内自治会防災会が主体となり行ったもので、「大丈夫ですか?」と声をかけ続けながらスコップで救出。119番通報により、駆け付けた救急隊へ迅速な引き継ぎを行った。

スキー場のゲレンデでは雪崩が発生し、高校の登山部10人が巻き込まれたことを想定した救助訓練が行われた。ドローンを使って上空から現場状況を確認後、電波で位置情報を発信・受信できるビーコンという機器やゾンデ棒と呼ばれる金属の棒を雪に刺して遭難者を探した。自衛隊と警察、消防は互いに連携しながら迅速に遭難者を捜索・救助する手順を確かめていた。遭難者はテントに運ばれ、医療チーム「DMAT」が診察や応急治療を行った。そしてケガの緊急度により優先順位をつけ、救急車で病院に搬送する手順を確認した。



ビーコンやゾンデ棒で遭難者を捜索

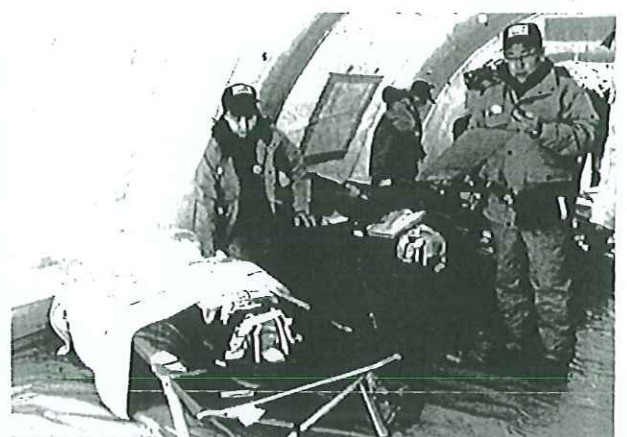
このほか、道路を塞ぐ所有者不明の車を重機を使い、撤去する「道路啓開訓練」や小さな小屋に火を付けて消火を行う「火災防御訓練」、地域住民らによる「避難所開設訓練」を行い、参加者は応急対策等を的確に展開していた。

閉会式で老松博行大仙市長は「多くの皆様の手助けのもと、訓練を実施できたことは地域防災力の充実、強化を」と確信している」と振り返り、県の鎌田雅人危機管理監は「訓練で見つかった改

取り組みに生かしてもらい、地域の防災意識と防災力の更なる向上に繋がればと思う」と



避難所を開設



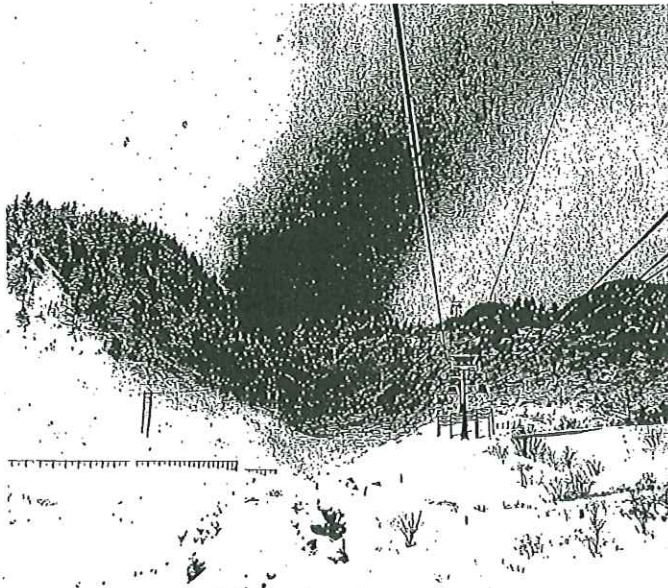
応急処置を行う「DMAT」

(当市のシバウトと同時期に、群馬県草津町 草津白根山が噴火)

草津白根山 噴火

1人死亡 11人負傷

スキー場に噴石、80人救助



スキー場のゴンドラから乗客が撮影した、本白根山の噴火直後に上がった黒い噴煙=23日午前、群馬県草津町



23日午前9時50分ごろ、草津白根山の本白根山(群馬県草津町、2171m)が噴火した。政府や群馬県災害対策本部によると、麓にある草津国際スキー場で、噴石などによって1人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

死傷者については、陸上自衛隊が、スキー場で訓練中だった男性隊員4人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

23日午前9時50分ごろ、草津白根山の本白根山(群馬県草津町、2171m)が噴火した。政府や群馬県災害対策本部によると、麓にある草津国際スキー場で、噴石などによって1人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

た男性隊員4人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

死傷者については、陸上自衛隊が、スキー場で訓練中だった男性隊員4人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

23日午前9時50分ごろ、草津白根山の本白根山(群馬県草津町、2171m)が噴火した。政府や群馬県災害対策本部によると、麓にある草津国際スキー場で、噴石などによって1人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

た男性隊員4人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

前兆は観測されず

草津白根山の噴火を受け、草津白根山は気象庁が観測データを長時間監視する「常時観測火山」に引き上げた。今回、火山性地震の増加や火山性微動の発生の事前兆候は観測されなかった。

死傷者については、陸上自衛隊が、スキー場で訓練中だった男性隊員4人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。

た男性隊員4人が死亡し、11人が重傷を負った。草津白根山で噴火が確認されるのは1983年以来となる。